

Future conference News 未来会議だより

令和8年3月1日発行

発行 栄東地区まちづくり未来会議

(TEL711-2203)

栄東地区まちづくり未来会議 検索



雪まつりウエルカム事業 2026

2月4日から11日まで第76回さっぽろ雪まつりが開催され、つどいむ会場では、期間中に61万3千人が訪れました。栄東地区まちづくり未来会議では、延べ350人が参加し、つどいむ会場に「ウエルカム雪像」を制作し、同会場入口で来場客を温かくおもてなしました。今号では、雪まつりウエルカム事業の軌跡を追ってみました。

■元気プロジェクト（ウエルカム事業）で準備開始

1月8日には、日の丸会館で栄町元気プロジェクト実行委員会（委員長・五十嵐力・栄町町内会長）が開催され、雪まつりウエルカム事業の実施計画を審議・決定しました。



▲挨拶する五十嵐・実行委員長

■東区緑化協会の見事なひな壇が完成

1月30日、横約14m、高さ3m、奥行き3mの雪塊から、4段のひな壇を制作しました。設計図をもとに、チェーンソーで雪のブロックを切り出し、各段を水平に削り、雪のシャーベットでブロックをつなぎ、表面を化粧する作業です。15名の東区緑化協会（会長 倉本諭・株式会社岩崎造園 代表取締役）のメンバーの息の合った作業で3時間余りで見事なひな壇の完成です。



あっという間に雪塊がひな壇の形に

■ピカチュウなど全体像出現



2/2 作業の様子

2月2日には、アンパンマン、ピカチュウの制作が本格化しました。実行委員、町内会役員、東消防署有志、若者支援センターなど36名が参加し、アンパンマンは東消防署有志が、ピカチュウは実行委員の山田豊委員、高橋節雄委員のもと、若者支援センターのボランティアが担当しました。ひな壇に並ぶ雪だるまは100体余りのため、不足する40体余りの雪だるまを連町女性部や役員などの方々に新雪に水を混ぜてシャーベットをつくり、大小2組のボールで雪を固めて制作しました。昼食は、会場の都合でカレーの炊き出しができず、都心部でカレー屋さんを営む栄東地区在住のご夫婦が作った無水カレーで、屋外作業での寒さや疲れをいやしました。



▲手際よく雪だるまを制作



▲作業後のカレー昼食は格別だ



▲東消防署有志チーム



▲東区連合町内会連絡協議会から差し入れを受け取る菊地代表

■栄東小2年生が60体余りの雪だるまを制作



2月3日は、貸し切りバスで栄東小学校2年生を2組に分けて送迎し、雪だるまを制作しました。青少年育成委員、町内会役員、商店街や社会福祉法人とらくろのボランティアが4人1チームの小学生をサポートしました。そりに水槽やバケツをのせて、大量の水を運び、バケツやボブスレーで新雪に水を入れてシャーベットをつくり、小学生が大小のボールにシャーベットを詰めて、頭と胴体部分をつくります。4人で4体の雪だるまを制作し、子どもたちは出来上がった雪だるまを追いながら、ひな壇への設置を確認していました。昼前には、101体の雪だるまがひな壇に整列して作業を終えました。



あっ、僕たちが作った雪だるま！

■中雪像を丁寧に仕上げ、ウエルカム雪像の完成へ



完成間近のウエルカム雪像が青空に映える

雪だるま制作と並行して、アンパンマン、ピカチュウに制作が続きます。アンパンマンでは、模型を手にし、離れた場所から、「そこはもっと丸く」、「もっと盛り上げて」、「頬を厚く」という指令が響きます。丁寧に丁寧に、精密に仕上げていきます。

ピカチュウも同様です。耳に厚みを持たせ、ほほに丸みをつけて、小さな“こて”で精密に表面を削ります。雪像づくり15回の熟練の技が光ります。両雪像とも4日間、延べ12時間余りの作業で、つどーむ会場入口に鎮座するウエルカム雪像の完成です。



▶ピカチュウの耳の仕上げ作業

■ウエルカム雪像を札幌市長に引き渡し

2月4日は13時からつどーむ会場の開会式が実施されました。五十嵐・実行委員長をはじめ実行委員らが参加しました。栄東地区まちづくり未来会議の菊地裕嗣・代表から札幌市の秋元克広・市長にウエルカム雪像の引き渡しが行われました。開会式後には、参加者と市長の記念撮影で、市長からは、制作に携わった方々への謝辞とねぎらいの言葉がありました。



秋元市長に雪像を引き渡し菊地代表

■早朝メンテで雪像のクオリティを保つ

雪像は作って終わりではありません。2月4日から11日までは、早朝午前7時すぎには、10人余りが雪像前に集合です。暖気で雪だるまの目、口が落下したり、20cmを超える大雪ですっぽり雪に覆われることも。早朝-17℃を記録した日も作業が続きました。こうした目に見えない作業が8日間の雪像のクオリティを保ちます。



朝日に照らされるピカチュウ



雪だるまの雪を払い、補修

■雪像前で記念撮影のシャッター押しをお手伝い

会期中の土日、祝日に雪像前で記念撮影をお手伝いしました。多言語で書かれた手づくりの看板を身にまとい、次々にシャッター押しに応じます。降雪や寒さの中、かじかむ手で、来場客への温かなおもてなしが続きました。



▲様々なアングルで撮影のお手伝い

■名残りを惜しみつつ、雪だるまや歓迎幕を回収

最終日の閉幕後、雪だるまの眉、目、口とメッセージカード、歓迎幕を回収しました。ピカチュウもちょっと寂しげですが、こうして雪まつりウエルカム事業は終了しました。栄東地区ここにあり！350名の総力で作り上げたおもてなしの終演です。参加された栄東地区関係者のみなさん、お疲れさまでした。



詳しい様子は、YouTubeでも公開中！
左のQRコードからぜひ見てね～！

